

第 62 期 株 主 通 信

平成20年4月1日～平成21年3月31日



Safety
Global
Technology

Regeneration for Quality

品質維新

お客様の信頼と期待に応える企業へ！

空間移動システムの専門メーカーとして、昨年、「創業60周年」を迎えたフジテック。

更なる躍進に向けて、全社全部門が一丸となり、お客様の信頼と期待にお応えする企業を目指しています。

その新たな事業として、エレベータの最先端拠点“ビッグウイング”に続き、

「エスカレータ拠点とフィールド拠点の再構築」を推進中です。

エスカレータ生産体制の更なる拡充と、研究開発体制の一層の強化を図るとともに、

フィールド部門での技術革新と広域災害時にも迅速・的確に対応していきます。

2007年4月からスタートした3カ年の中期経営計画“Regeneration for Quality”(品質維新)も、今年度が最終年度。

商品やサービスの品質向上はもとより、企業活動すべてにおいてクオリティーNo.1を追求し、

お客様にご満足のいただけるよう、企業価値の更なる向上に努めています。

経営ビジョン

安全と品質を最優先に、
顧客の信頼と期待に
応える

グローバルで評価される
No.1 商品を提供する

企業体質を革新して、
持続的成長基盤を
強固にする

社長インタビュー	1
主な活動概況	4
新商品	6
トピックス	8
連結決算情報	10
株式の状況	14
企業データ	15
お知らせ	16
株式についてのご案内	17

President's Interview

社長インタビュー

中期経営計画“Regeneration for Quality”2年度のご報告と本年度の実践目標について

再構築事業の完遂と、果敢なグローバル戦略の展開により、更なる発展と躍進を目指します。



代表取締役社長 内山 高一

Q 昨年、「創業60周年」を迎えられましたが、これからどのような経営をしていかれますか。

当社は1948年に創業し、昨年、「創業60周年」を迎えました。創業以来、空間移動システムの専門メーカーとして、日本はもとより、東アジア、南アジア、北米、南米、欧州、中東へと市場を拡大し、現在は世界20の国と地域に企業拠点・生産拠点を擁しています。

「新しい時代にふさわしい美しい都市機能を、世界の国々で、世界の人々と、ともに創る」ことを経営理念に掲げ、その国に根付いた企業活動を展開してきました。この“共存共栄”の志という今後も継続する面と、時代の変化に対応して常に革新していく面を併せ持ちながら、更なる発展に向けて全力で邁進していく決意です。

しかしながら、昨年は100年に一度と言われる金融危機が発生し、世界経済にかつて無い大きなダメージを与えており、まだまだ先が読めない状況が続いています。

「逆境はチャンス」との言葉のとおり、当社ではいち早くあらゆる施策・戦略を打ち出し、企業体質の更なる強化を図っています。当社を取り巻く企業環境は非常に厳しい状況にありますが、次の飛躍に向けて全グループが一丸となり、攻めの姿勢で臨んでいきたいと考えます。

Q 世界的な景気後退の中で、昇降機市場の状況は、いかがでしたでしょうか。

昨年度の世界経済は、昨年秋以降、米国に端を発した金融市場の混乱が实体经济に波及し、主要先進国では急激かつ連鎖的に景気後退が進みました。中国を始めとする新興国でも、輸出環境が悪化したのに伴い、景気が明らかに減速しました。日本経済も、需要が急激に減速し、景気後退が一段と強まりました。

President's Interview

こうした情勢の中、当社に関連します昇降機業界において、北米市場の需要は集合住宅が低迷したのに加え、オフィスビルや商業施設なども急速に減退しました。

中国市場でも、これまで堅調に需要が拡大してきましたが、世界経済の減速を受けて不動産開発が鈍化するなど、厳しさが一段と増しました。

南アジアでは、堅調に推移してきましたシンガポールの不動産投資にも陰りが見られ、周辺国でも需要の減少傾向が続きました。

日本市場では、公共事業が依然低迷しており、一方、民間部門でも不動産市況が急速に悪化する中、マンション販売や商業施設の開発が大幅に減少しました。

これによって、収益面では、世界的な景気減速を反映した激しい価格競争と、原材料価格の高止まりが影響して、厳しい状況が続きました。

第62期は中期経営計画の2年目でしたが、 昨年の業績はどのようになりましたか？

昨年度の連結売上高は、国内売上高が457億80百万円で前期と比べて5.4%減少したのに加え、為替の円高の影響もあり、海外売上高が前期比0.7%減の618億28百万円となり、前期と比べて2.7%減少の1,076億9百万円となりました。

損益面では、南アジア・東アジアの増益で、海外地域は前期比3億60百万円の営業増益となりましたが、日本での大幅な減益により、営業利益は前期と比べて42.0%減少の25億68百万円となりました。営業外収支は、受取利息の減少による金融収支の減益に加え、急激な円高による為替差損5億13百万円などで24百万円のマイナスに転じ、経常利益は25億44百万円で前期と比べて46.2%減少しました。

さらに、特別損益で、たな卸資産の評価損9億15百万円や大阪府茨木市の旧本社跡地の再開発、および兵庫県豊岡市のエスカレータ生産拠点の再構築に伴う資産の除却損や投資有価証券の評価損などを計上した結果、税金等調整前当期純利益は前期と比べて71.1%減少の12億64百万円となりました。

繰延税金資産の取崩し等により、税金費用は12億71百万円となり、さらに少数株主利益6億42百万円を控除した当期純損失は6億49百万円となりました。



中期経営計画3年目となる 第63期の経営方針や取り組みについて お聞かせください。

当社では2007年度から、3カ年の中期経営計画「Regeneration for Quality」(品質維新)をスタートさせましたが、本年度は最終年度に当たることから、再構築事業の完遂と、新商品の市場投入、サービス・モダンゼーション事業での一層の拡販を進めていきます。

具体的には、まず再構築事業として、「エスカレータ拠点とフィールド拠点」の完遂を目指します。エスカレータ拠点は兵庫県豊岡市にあり、生産体制の更なる拡充と研究開発体制の一層の強化を図るため、新たにオフィス棟と工場棟を建設中です。開発から生産に至るまでのスピーディーな一貫体制を確立し、「ビッグステップ」として事業の拡大を目指します。

一方、大阪府茨木市の旧本社では、現在活動中の「フィールド技術研究所」と「フィールド研修センター」に加え、サービス・モダンゼーション部門、エレベータ遠隔監視センター「セーフネットセンター」、グローバル市場への供給も可能な「部品センター」を集結し、「ビッグフィット」として生まれ変わります。これによって、フィールド技術の更なる向上と、広域災害時の早期復旧体制を確立していきます。

商品開発面では、エレベータの安全性向上に関する改正建築基準法が今年9月に施行されるのに伴い、業界に先駆けて大巨

認定を取得するとともに、“安全・安心”を更に高める商品の開発に取り組んでいきます。

このほか、納品後のアフターマーケットでは、メンテナンス・修理に関連するサービス部門と、最新機種に刷新するモダンゼーション部門での需要が堅調なことから、営業体制を一層強化し、収益の拡大に努めていきます。



世界市場に向けては、 どのようなグローバル戦略を 展開していけますか？

世界市場においては、フジテック・グループのグローバルな連携体制を発揮しながら、地域に根ざした販売戦略、事業戦略を果敢に展開し、収益の更なる向上を図っていきます。

東アジアおよび南アジアの市場は堅調ですが、特に中国では依然根強い需要があることから、生産体制と拡販体制を一層強化します。北京近郊のエレベータ生産拠点「華昇フジテック」では、大規模住宅プロジェクトを相次いで受注しており、エレベータ生産体制を強化するとともに、上海のエスカレータ生産拠点「上海華昇フジテック」では、生産台数の倍増によって中国国内のみならず、世界各地での旺盛な需要にお応えしています。

さらに、中国での機器供給拠点となる「上海調達センター」の新工場建設を昨年7月から進めていましたが、このほど完成し、今年10月から本格稼働の予定です。これによって、クオリティとコストメリットを高めた機器を迅速に安定して世界へ送り出すグローバル供給体制が構築でき、収益向上に大きく貢献できるものと考えます。

また、中国と並んで、今後エレベータの需要が大いに期待されるインドでは、更なるシェア拡大に向けての販売活動を行っています。



当期の配当金について お聞かせください。

当期の期末配当金につきましては、普通配当5円に創業60周年記念配当2円を継続する予定でありましたが、当期の業績を踏まえ、普通配当5円とさせていただきます。これにより、当期の年間配当金は、中間配当1株当たり5円と合わせ、1株当たり10円となります。



最後に、株主の皆様へ メッセージをお願いします。

本年は中期経営計画の最終年度として、全グループが一丸となって経営目標の必達を期し、業績の早期回復と更なる企業価値の向上を図っていきたくと考えます。

そのためには、現在建設中のエスカレータ拠点とフィールド拠点の再構築事業を完遂させ、エレベータ拠点を含む国内の3拠点が三位一体となって、最高の商品とサービスをご提供していくとともに、世界市場においても積極果敢な販売体制で一層の拡販を図り、収益の拡大を目指していきます。

今後も、空間移動システムの専門メーカーとしての強みを大いに発揮し、独創的な新技術・新商品の開発、“安全と品質”に徹したモノづくりとサービスを通じて、都市機能の更なる向上と発展に貢献してまいります。株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Activities

主な活動概況

日本

Japan



阪神なんば線ドーム前駅

東京では、多摩地域における司法中核拠点として、“立川第二法務総合庁舎”が竣工し、エレベータ7台が活躍しています。

また、武蔵小金井駅南口再開発事業に伴い、

タワー武蔵小金井”と商業施設にエレベータとエスカレータ計10台が納められています。

大阪では、昨年10月に京阪電車“中之島線”が開業し、「大江橋駅」と「なにわ橋駅」にエレベータとエスカレータ計21台が活躍しているのに続き、今年3月には“阪神なんば線”が開業し、「ドーム前駅」にエレベータとエスカレータ計13台が納められています。

名古屋では、名古屋駅前の一等地にオフィスと商業施設から成る複合ビル“名古屋ビルディング”が完成し、展望用機種を含むエレベータ

とエスカレータ計10台が活躍しているほか、地上47階建のタワーマンション“ミッドキャピタルタワー”に高級エレベータ5台が設置されています。

また、兵庫県では、阪急西宮スタジアムの跡地に建設された“阪急西宮ガーデンズ”がオープンし、エレベータ20台が活躍しています。

このほか、山梨県では、富士山と山中湖を一望するリゾートホテル“エクシブ山中湖サンクチュアリ・ヴィラ”が完成し、シックで格調高いエレベータ6台が納められています。



ミッドキャピタルタワー

北南米

North & South America

米国では、コロラド州・デンバーにおいて、世界的に著名なホテルと高級住宅から成る複合ビル“フォーシーズンズ・プライベート・レジデンス・デンバー”が建設されています。地上



リビングストン・プレイス・ツインタワー

45階建の同ビルには、分速300mの高速機種を含むエレベータ9台が納められます。

同じく米国では、ニューヨーク市に建つ地上47階建の超高層複合ビル“タワー111”向けに、高速機種を含むエレベータ7台を受注しました。

カナダでは、カルガリーの一流オフィスビル“リビングストン・プレイス・ツインタワー”が完成し、エレベータとエスカレータ計28台が活躍しているのを始め、バンクーバーに建つ世界的ホテル“シャングリラ”と高級コンドミニアムの複合ビルには、超高速機種を含むエレベータ13台が納められています。

アルゼンチン・ブエノスアイレスでは、世界的建築家シーザー・ペリ氏設計による高級オフィスビル“レブソル南米本社ビル”が完成し、格調高いエレベータ16台が活躍しているほか、プエルト・マデーロ地区に建つ“マデーロ・オフィス”向けにエレベータ20台を受注しています。



レブソル南米本社ビル

東アジア

East Asia

香港では、香港島中心部の超一等地に、“政府総合庁舎本部ビル”が建設されることになり、エレベータとエスカレータ計83台を大量一括受注しました。

同じく香港では、地上72階建を誇る超高層複合ビル“ザ・カリナン”に、高速エレベータとエスカレータ計32台が活躍しています。

中国・江蘇省無錫市では、万達集団が手掛ける大規模住宅・商業施設開発プロジェクト向けにエレベータとエスカレータ計156台を受注したのを始め、上海市では世界屈指の五つ星ホテル“ザ・ペニンシュラ上海”向けに、高級エレベータ28台を納入します。

台湾では、今年7月に高雄市で開催される「ワールド・ゲームズ」のメインスタジアムに、エレベータ10台を納入するとともに、新竹市に建設中の世界的に著名な“シェラトン新竹ホテル”向けに、エレベータとエスカレータ計28台を納めます。



ザ・カリナン



「ワールド・ゲームズ」のメインスタジアム

このほか韓国では、首都ソウルに建設される大規模住宅プロジェクト“レミアン”向けに、エレベータとエスカレータ計57台を受注しました。

南アジア

South Asia

シンガポールでは、セントーサ島にユニバーサル・スタジオや6つのホテルなどから成る“リゾート・ワールド・セントーサ”の建設が進められており、ここにエレベータとエスカレータ計159台が納められます。

同じくシンガポールでは、オフィスや商業施設など4棟から成る複合ビル“アレクサンドラ・ビジネスパーク”向けに、エレベータとエスカレータ計68台を受注したほか、超高層コンドミニアム“ザ・セイル”にはエレベータ

とエスカレータ計27台が納められています。

マレーシアでは、東南アジア最大級の大型商業複合施設“イオン・ブッキング・ショッピングセンター”にエレベータ・エスカレータ・オートウォーク計79台を納入したのに続き、マラッカに建設される大型商業施設“イオン・マラッカ”向けに、エレベータとエスカレータ計55台を受注しました。

このほかインドでは、世界的に著名なホテル“フォーシーズンズ・ホテル・ムンバイ”に、豪華なエレベータ8台が活躍しています。



ザ・セイル



フォーシーズンズ・ホテル・ムンバイ

欧州・中東

Europe & Middle East

中東最大の国際空港となるアラブ首長国連邦の「ドバイ国際空港」では、昨年10月、第3ターミナルが完成。定員120人乗りの世界最大級の展望用エレベータ8台が設置され、大きな話題を集めています。

同じくドバイでは、人工島「パーム・ジュメイラ」に建設されたモノレール駅舎向けに、エレベータとエスカレータ計32台を納入したのを始め、都市鉄道プロジェクト“ドバイ・メトロ”向けに、オートウォーク98台が納められます。

このほか、シリア第二の都市アレッポでは、五つ星ホテル“シェラトン・アレッポ・ホテル”がオープンし、ハイグレードなエレベータ8台が活躍しています。



パーム・ジュメイラのモノレール駅舎

新商品

標準型からオーダー型まで、 エクシオール が更に進化しました！

XIOR
エクシオール

昨年4月に販売を開始したフジテックの標準型マシンルームレス・エレベータ エクシオール。ドア周りの安全性を高めたトリプルドアセンサー、乗場液晶インジケータの標準装備、さらにLED天井照明の採用など、業界に先駆けたエレベータとして、お客様からご好評をいただいています。

このたび、お客様の幅広いニーズにお応えするため、エクシオールの適用範囲を更に拡大して、オーダー型が加わりました。

オーダー型では、最大積載2,000kg、定員30人までの大型化に対応。用途も乗用はもとより、人荷共用、荷物用まで多彩にラインアップしています。

中でも、天井照明にガラスクロスを採用したかごタイプが新しく登場。自然で柔らかな光が空間を包み込むとともに、LED照明により、長寿命化と省エネルギー化を実現します。

大型エレベータながら、マシンルームレスのメリットを最大限に生かし、設計の自由度が更に広がります。

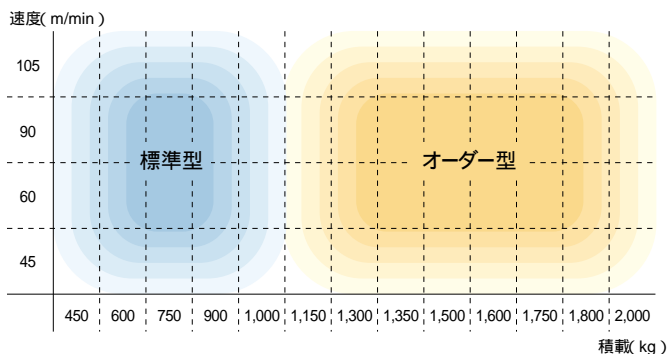
しかも、エクシオールの使いやすさ、心地よさ、安心感はそのままで備わっています。

標準型もオーダー型も、これからはエクシオールの中から、最適な機種をお選びいただけます。



天井照明にLEDガラスクロスを採用

標準型とオーダー型の適用範囲



建物と調和し、人に優しい 標準型エスカレータ

GS-NX

シリーズ

エレベータと並び、昨年4月から発売した標準型エスカレータが GS-NXシリーズ です。全国各地の商業施設や公共施設を中心として、数多くの商品を納入しています。

基本性能としての快適な乗り心地、安全性、機能性、静粛性を更に進化させながら、建物と美しく調和し、人に優しい先進のエスカレータを実現しています。

乗降口のニューエル部に斬新なデザインを採用するとともに、運転方向を表示する矢印灯を装備することで、ユーザーフレンドリーに対応しているほか、挟まれを検知するスカートガード安全装置やコムセーフティを標準装備し、安全性を更に向上させています。

GS-NXシリーズ は、中国の「上海華昇フジテック」と共同で開発した商品で、世界各国の規格に対応したグローバル・スタンダードを実現しており、日本はもとより、世界各地に多数の商品を納めています。



ひもやコードの挟み込みを防止する 「ドアエッジセンサー」を開発!

フジテックは、エレベータのドア周りの安全性を更に強化させるため、業界で初めてレーザー方式のひも状物体検出装置「ドアエッジセンサー」を開発、6月1日から販売を開始しました。

ドアが閉まる際に、ひもやコードの挟み込みを検出すると、エレベータが動き出す前に、ドアを反転して開きます。

フジテックの エクシオール に標準装備している「トリプルドアセンサー」に、「ドアエッジセンサー」(有償付加仕様)をプラスすることで、利用者の皆様に大きな安心をお届けします。



“ビッグフィット” “ビッグステップ”とも順調に建設工事が進行中

フジテックの新たな事業計画の大きな柱となるのが、「フィールド拠点とエスカレータ拠点の再構築」です。更なる事業の拡充を図り、活動の中核拠点とするため、最新の施設として整備を行います。

大阪府茨木市の旧本社では、現在、据付・メンテナンスというフィールド部門での技術向上と人材育成を図るため、「フィールド技術研究所」と「フィールド研修センター」が活動を行っていますが、ここにサービス・モダニゼーション部門を始め、遠隔監視センター「セーフネットセンター」、グローバル市場にも対応可能な部品の供給基地となる「部品センター」を集結し、フィールド関連と広域災害の対策拠点“ビッグフィット”として再構築を行っています。新社屋の建設工事は、今年3月から開始し、来年2月に完成の予定です。

一方、エスカレータの生産拠点は、兵庫県豊岡市にあり、1989年2月に操業して以来、今年でちょうど20年を迎えました。

生産体制の更なる拡充と、研究開発体制の一層の強化を図るため、新たにオフィス棟と工場棟を建設中です。

新エスカレータ開発・生産拠点は“ビッグステップ”と名付け、開発から生産までのスピーディーな一貫体制を構築します。

新社屋の建設工事は、今年秋に完成の予定で、引き続き、既設工場の改修工事を進め、すべての工事が完成するのは、来年春の予定です。このように、エレベータの最先端拠点“ビッグウイング”に続き、フィールドの拠点“ビッグフィット”、エスカレータの拠点“ビッグステップ”が相互に連携し、より強固な企業基盤の確立を目指しています。



“ビッグフィット”完成予想図



“ビッグステップ”完成予想図

中国「上海調達センター」の新工場が完成!

世界最大の昇降機市場・中国において、フジテックでは北京近郊の河北省廊坊市のエレベータ生産拠点「華昇フジテック」と、上海市のエスカレータ生産拠点「上海華昇フジテック」を核に、中国はもとより、世界に向けて数多くの製品を送り出しています。

こうした中、グローバル拠点に向けたエレベータとエスカレータの機器供給基地である「上海調達センター」では、かねてから建設工事を進めてきました新工場が完成し、今年10月から本格稼働する運びとなりました。

「上海調達センター」は、“上海フジテック城”と称する約15万m²の敷地内にあり、同敷地内にはエスカレータの生産拠点である「上海華昇フジテック」と、研究開発拠点である「上海RDセンター」があり、今後は

開発から生産、調達に至る一貫体制で、高性能・高品質の製品づくりに取り組んでいきます。



上海調達センター

フジテック・アメリカ 本社・工場を移転し、更なる飛躍へ

1977年に進出して以来、現在では全米各地に拠点を擁し、積極的な企業活動を展開しているフジテック・アメリカ。全米各地のオフィスビル、ホテル、商業施設、駅や空港のターミナルなどに数多くの商品を納入しています。1982年にはオハイオ州にエレベータ工場を建設し、生産を行っていましたが、

このほど旧本社近くに新本社および工場が完成し、今年3月に本社機能と生産機能を移転しました。

新工場では、テクニカルセンターなども設け、最高の商品とサービスを提供することを目指しています。



フジテック・アメリカの新本社・工場

Financial Results

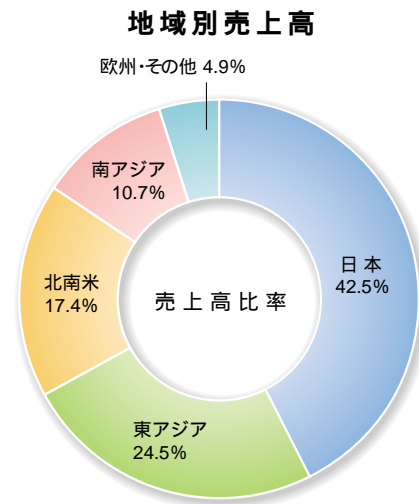
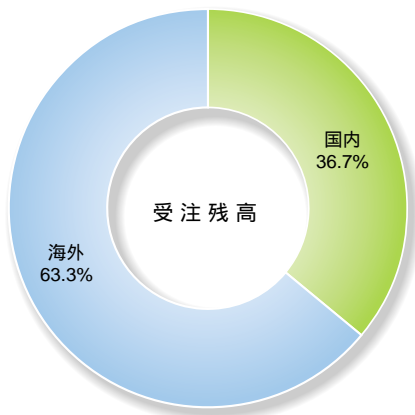
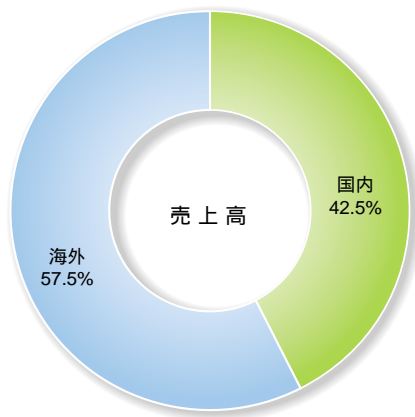
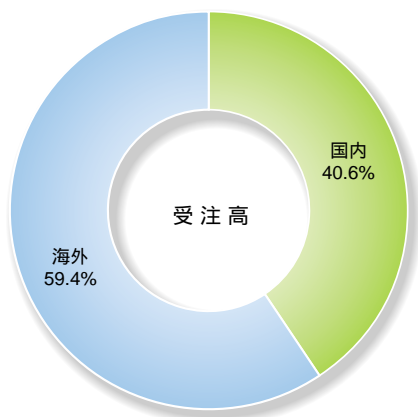
連結決算情報

営業の状況

平成21年3月期
(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

金額(百万円)

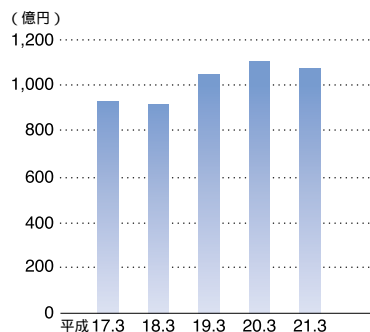
	受注高	売上高	受注残高
国内	49,094	45,780	41,129
海外	71,768	61,828	70,954
合計	120,863	107,609	112,083



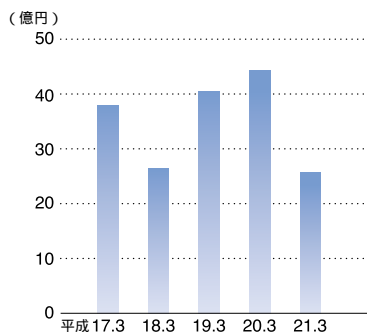
業績の推移

		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
売上高	百万円	92,704	91,627	104,716	110,632	107,609
営業利益	百万円	3,792	2,634	4,037	4,428	2,568
経常利益	百万円	4,203	3,214	4,772	4,725	2,544
当期純利益または当期純損失()	百万円	1,896	1,021	7,245	2,219	649
1株当たり当期純利益または当期純損失()	円	20.20	10.58	77.32	23.66	6.94
総資産	百万円	101,967	115,970	122,889	112,043	100,823
純資産	百万円	54,540	60,553	71,786	68,355	59,810
1株当たり純資産	円	582.37	646.41	713.27	675.35	591.87
研究開発費	百万円	1,726	1,834	1,880	2,257	2,008
設備投資	百万円	1,898	8,506	4,738	2,003	2,733

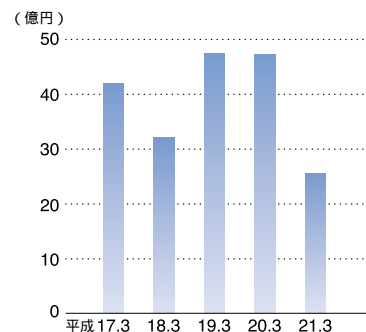
売上高



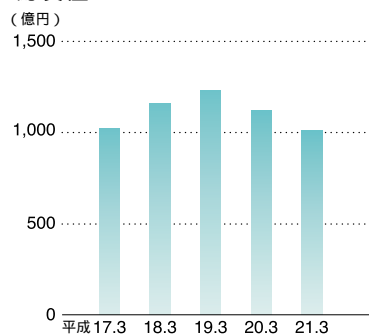
営業利益



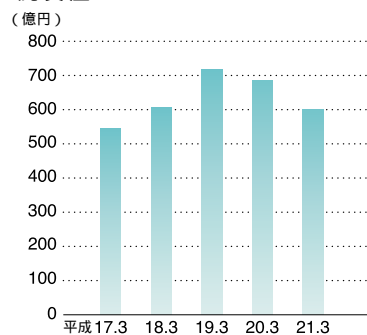
経常利益



総資産



純資産



Financial Results

連結貸借対照表

(平成21年3月31日現在)

金額(百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	60,644	流動負債	31,659
現金及び預金	21,422	支払手形及び買掛金	10,697
受取手形及び売掛金	24,460	短期借入金	6,339
有価証券	0	1年以内に返済予定の長期借入金	112
商品及び製品	3,125	リース債務	86
仕掛品	5,351	未払法人税等	554
原材料及び貯蔵品	5,029	繰延税金負債	21
繰延税金資産	151	前受金	6,116
その他	1,422	賞与引当金	954
貸倒引当金	320	工事損失引当金	1,224
固定資産	40,179	完成工事補償引当金	293
有形固定資産	25,835	その他	5,258
建物及び構築物	13,847	固定負債	9,353
機械装置及び運搬具	2,594	長期借入金	4,556
工具、器具及び備品	1,470	リース債務	26
土地	6,747	繰延税金負債	317
リース資産	112	退職給付引当金	4,245
建設仮勘定	1,063	長期未払金	207
無形固定資産	2,613	負債合計	41,013
のれん	945	純資産の部	
その他	1,667	株主資本	73,138
投資その他の資産	11,730	資本金	12,533
投資有価証券	5,046	資本剰余金	14,565
長期貸付金	1,925	利益剰余金	46,161
繰延税金資産	52	自己株式	122
その他	5,020	評価・換算差額等	17,747
貸倒引当金	314	その他有価証券評価差額金	215
資産合計	100,823	為替換算調整勘定	17,962
		少数株主持分	4,418
		純資産合計	59,810
		負債・純資産合計	100,823

(注)1. 当年度の連結子会社は17社であり、持分法適用会社はありません。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

金額(百万円)

売上高	107,609
売上原価	88,585
売上総利益	19,023
販売費及び一般管理費	16,454
営業利益	2,568
営業外収益	1,121
受取利息	613
受取配当金	153
雑収入	354
営業外費用	1,145
支払利息	368
為替差損	513
雑損失	263
経常利益	2,544
特別利益	790
固定資産売却益	682
投資有価証券売却益	0
貸倒引当金戻入益	8
集約化特別助成金	100
特別損失	2,070
固定資産売却損	107
固定資産除却損	587
減損損失	111
投資有価証券売却損	0
投資有価証券評価損	349
たな卸資産評価損	915
税金等調整前当期純利益	1,264
法人税、住民税及び事業税	914
法人税等調整額	356
少数株主利益	642
当期純損失	649

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

金額(百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	8,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,185
財務活動によるキャッシュ・フロー	781
現金及び現金同等物に係る換算差額	941
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	7,477
現金及び現金同等物の期首残高	16,866
現金及び現金同等物の期末残高	9,388

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

金額(百万円)

	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計
平成20年3月31日残高	12,533	14,565	48,710	116	75,693
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			1,123		1,123
従業員奨励及び福利基金			4		4
在外子会社の会計処理の 変更に伴う増減			771		771
当期純損失()			649		649
自己株式の取得				6	6
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	2,548	6	2,554
平成21年3月31日残高	12,533	14,565	46,161	122	73,138

	評価・換算差額等				少数 株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成20年3月31日残高					5,138	68,355
連結会計年度中の変動額	1,403	1	13,881	12,476		
剰余金の配当						1,123
従業員奨励及び福利基金						4
在外子会社の会計処理の 変更に伴う増減						771
当期純損失()						649
自己株式の取得						6
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	1,188	1	4,081	5,270	719	5,990
連結会計年度中の変動額合計	1,188	1	4,081	5,270	719	8,545
平成21年3月31日残高	215	-	17,962	17,747	4,418	59,810

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

Stock Information

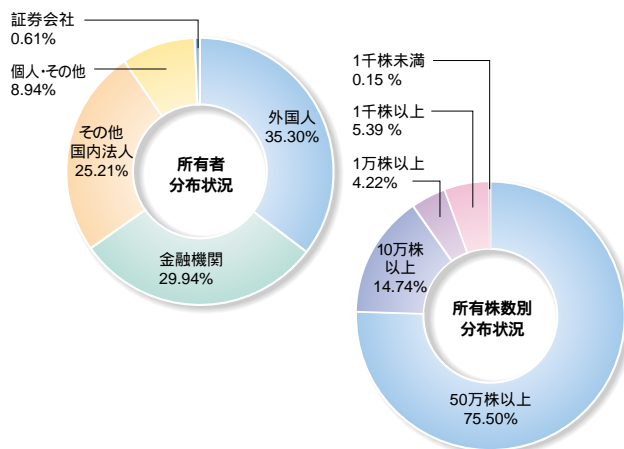
株式の状況

発行済株式の総数 93,767,317株

株主数 3,770名

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

所有者分布状況・所有株数別分布状況

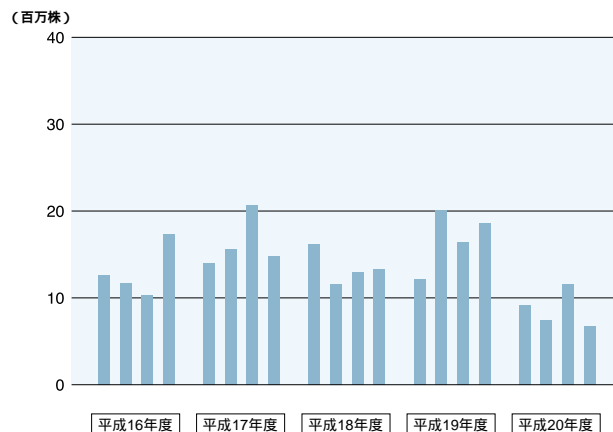
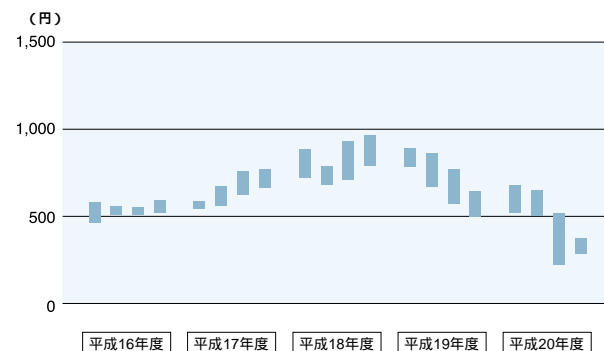


大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
1. シティグループ・グローバル・マーケット・インク	13,852	14.80
2. 株式会社ウチヤマ・インターナショナル	10,025	10.71
3. 富士電機ホールディングス株式会社	5,089	5.43
4. クレジット スイス チューリッヒ	4,606	4.92
5. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,282	4.57
6. 株式会社りそな銀行	4,203	4.49
7. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	3,545	3.78
8. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,166	3.38
9. メロン バンク トリーティー クライアント オムニバス	2,504	2.67
10. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,332	2.49

(注) 出資比率は平成21年3月31日現在の発行済株式総数である93,767,317株から自己株式179,601株を除いて計算しています。

株価 / 出来高推移



会社の概況

設立 昭和23年2月9日

資本金 125億3,393万円(平成21年3月31日現在)

フジテック・グループ

【日本】本社 滋賀県彦根市 ビッグウイング TEL(0749)30-7111
 東京本社 東京都港区三田3丁目9-6 TEL(03)4330-8200
 大阪支社 大阪市浪速区難波中2丁目10-70 TEL(06)6636-5900

【北米】アメリカ FUJITEC AMERICA, INC.
 カナダ FUJITEC CANADA, INC.
 グアム FUJITEC PACIFIC, INC.

【南米】ベネズエラ FUJITEC VENEZUELA C.A.
 アルゼンチン FUJITEC ARGENTINA S.A.
 ウルグアイ FUJITEC URUGUAY

【欧州】ドイツ FUJITEC DEUTSCHLAND GmbH
 イギリス FUJITEC UK LTD.

【中東】サウジアラビア FUJITEC SAUDI ARABIA CO., LTD.
 エジプト FUJITEC EGYPT CO., LTD.
 アラブ首長国連邦 FUJITEC UAE

【南アジア】シンガポール FUJITEC SINGAPORE CORPN. LTD.
 フィリピン FUJITEC, INC.
 マレーシア FUJITEC (MALAYSIA) SDN. BHD.
 インドネシア P.T. FUJITEC INDONESIA
 インド FUJITEC INDIA PRIVATE LTD.
 ベトナム FUJITEC VIETNAM CO., LTD.

【東アジア】ホンコン FUJITEC (HK) CO., LTD.
 タイワン 富士達股份有限公司
 コリア FUJITEC KOREA CO., LTD.

【中国】中国 華昇富士達電梯有限公司
 中国 上海華昇富士達扶梯有限公司
 中国 上海富士達電梯研発有限公司
 中国 富士達電梯配件(上海)有限公司
 中国 FUJITEC CHINA

役員

取締役

代表取締役社長	内山 高一
取締役	住本 彰
取締役	関口 岩太郎
取締役	野木 正彦
取締役	北川 由雄
取締役	重兼 壽夫
取締役	花川 泰雄
取締役	稲葉 和夫

監査役

常勤監査役	松原 敏之
監査役	中野 正信
監査役	佐伯 照道

執行役員

執行役員社長	内山 高一*
執行役員副社長	住本 彰*
執行役員副社長	関口 岩太郎*
専務執行役員	野木 正彦*
専務執行役員	北川 由雄*
常務執行役員	白井 孝雄
常務執行役員	梶田 順司
常務執行役員	津山 圭二
常務執行役員	岡田 隆夫
常務執行役員	黒木 和比幸
執行役員	西口 久信
執行役員	升本 裕紳
執行役員	山城 啓二
執行役員	奥田 勝次
執行役員	井上 治男
執行役員	多川 正弘
執行役員	船見 実生
執行役員	原田 政佳

*は兼務しています。

(平成21年6月25日現在)

お知らせ

株式の振替等のご案内

株券電子化時点において、お手元に自己名義の株券をお持ちの場合など、証券会社等へお届けいただけなかった株主様の権利を保全するため、当社が「特別口座」を開設しました。

「特別口座」に記載された株式については、制度上、そのままでは売買することができないことにご留意いただく必要があります。ただし、単元未満株式の買取りのご請求は可能です。

売買するためには、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式を振替える(株数等の記録を移す)手続きが必要となります。振替の手続きは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

配当金領収書にてお受取りの株主様は、年末または翌年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株主様は、配当金支払いの際に送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。なお、両書類は確定申告を行う際、その添付資料としてご使用いただくことができます。

株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録しております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日 なお、中間配当の株主確定日は9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載することといたします。 ホームページアドレス： http://www.fujitec.co.jp/koukoku/
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33-1 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜2丁目2-21(〒541-0041) 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話：0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	1,000株

フジテック株式会社
www.fujitec.com

